

令和4年度「公立大学法人広島市立大学の業務実績に係る評価結果」における評価委員会意見の反映状況について

| 区分 | 小項目（評価委員会による評価）  |     | 評価委員会意見の反映状況  |
|----|--|-----|---|
|    | 評価委員会による意見・コメント等   | 掲載頁 |   |
| 教育 | 特色ある教育（A）  |     |   |
|    | <p>○地域志向特定プログラムの受講者数や修了認定者数が数値目標を下回っており、教育基盤センターを中心とした、学生への働きかけが必要であると考えます。</p>                      | 13  | <p>教育基盤センターにおいて、地域志向特定プログラムの中心的な授業「地域課題演習」を集中講義に変更し、他の授業と重ならないことで履修しやすくするなど、受講者数の増加に向けた取組を行っている。</p> <p>また、本学では、地域志向特定プログラムを修得のうえ地域貢献に関するテーマで卒業論文等の単位を取得した学生に「ひろしま地域リーダー」の称号を授与している。令和6年度に教育基盤センター内に地域志向教育に関わる教員を中心とした地域志向教育検討ワーキンググループを設置し、学生にとって「ひろしま地域リーダー」の取得がより魅力的なものとなるよう、取得要件や取得時期の変更等を検討している。</p>   |
| 平和 | 平和（A）  |     |   |
|    | <p>○戦争の話題が身近になっている今日、今日的な平和学の充実を期待している。</p> <p>○平和の項目にある取組全般について、堅実に取り組んではいるが、今後、大きく進展する取組も期待する。</p> | 32  | <p>広島平和研究所において、ウクライナへの軍事進攻と国際社会への影響等についてのプロジェクト研究や市民の関心が高いテーマを扱った連続市民講座「広島からウクライナ戦争を考える」を実施するなど、昨今の世界情勢を踏まえた平和研究の推進や情報発信に努めている。</p> <p>また、学部教育においては、全学共通系科目の平和科目の一つとして、フィールドワークやグループワークを通じて原爆被害を学び、現在における被爆体験継承の課題を考える「『ヒロシマ』を考える」を新設するなど、平和関連教育の充実を図っている。</p> <p>さらに、「平和に関する『知の拠点』」の形成に向けた、広島市、広島大学、広島市立大学及び広島平和文化センターの連携協力に関する協定（令和5年1月締結）に基づき、4者で一般社団法人ヒロシマ平和研究教育機構を令和6年1月に設立し、海外若手研究者の招へいや大学院連携による広島ならではの教育プログラムの推進など、平和に関する研究・教育のさらなる充実に取り組んでいる。</p> |